平成19年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成19年の梅雨入りは九州南部を除いて遅く、梅雨明けは南西諸島や九州南部を除いて遅かった。梅雨の時期の降水量は、一部の地域を除き平年並が多かった。日照時間は、6月にかなり多い地域があったが、7月は少なく、かなり少ない地域もあった。

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っています。今般、平成19年の梅雨についてとりまとめた結果は以下のとおりです。

1. 梅雨入り及び梅雨明けの事後検討

各地方ごとに、地方全体としての季節の推移を精査した結果、おおむね当初発表どおりの時期で確定した。事後の検討により、関東甲信および東北北部の入りについては当初発表から共に8日遅い梅雨入りとし、東北北部の明けについては当初発表より10日遅い梅雨明けで確定した。（別表1及び2を参照）

2. 梅雨時期の特徴

(1) 梅雨入り

かなり遅い梅雨入りとなった地方が多かった。九州南部で平年並、沖縄で遅い他は、かなり遅い入りとなった。

(2) 梅雨明け

南西諸島と九州南部では平年並の梅雨明けとなった。その他の地方は、遅い梅雨明けとなり、関東甲信、北陸、東北ではかなり遅かった。

(3) 梅雨前線

梅雨前線は、6月中旬にかけて南西諸島から本州の南海上に位置することが多く、活動が活発となった。その後は本州付近に停滞することが多かった。

(4) 降水量

梅雨時期の降水量は、東日本から西日本の太平洋側や東北南部で多く、九州南部ではかなり多かった。奄美、九州北部、東北北部では少なかった。6月中旬にかけて梅雨前線が本州の南海上に離れて停滞することが多く、四国や九州北部の降水量がかなり少なかった一方で、沖縄では降水量が平年より多くなった。7月は梅雨前線が本州付近に停滞し活動が活発になったことや台風第4号の影響により、東日本から西日本の太平洋側で降水量がかなり多くなった。

本件の問い合わせ先: 予報部 予報課 (内線 3127)
地球環境・海洋部 気候情報課 (内線 3154)

平成19年梅雨入り・明け（事後検討結果）

地域名	梅雨入りと階級(*1)			梅雨明けと階級(*1)			梅雨時期の降水量 平年比と階級(*2)
	事後検討	当初発表	平年	事後検討	当初発表	平年	
沖 縄	5月16日ごろ(+)	5月16日ごろ	5月 8日ごろ	6月21日ごろ(0)	6月21日ごろ	6月23日ごろ	105%(0)
奄 美	5月26日ごろ(+)*	5月26日ごろ	5月10日ごろ	6月28日ごろ(0)	6月28日ごろ	6月28日ごろ	82%(-)
九州南部	6月 1日ごろ(0)	6月 1日ごろ	5月29日ごろ	7月18日ごろ(0)	7月18日ごろ	7月13日ごろ	142%(+)*
九州北部	6月13日ごろ(+)*	6月13日ごろ	6月 5日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月18日ごろ	86%(-)
四 国	6月13日ごろ(+)*	6月13日ごろ	6月 4日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月17日ごろ	125%(+)
中 国	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月 6日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月20日ごろ	104%(0)
近 畿	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月 6日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月24日ごろ	7月19日ごろ	110%(0)
東 海	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月 8日ごろ	7月27日ごろ(+)	7月27日ごろ	7月20日ごろ	126%(+)
関東甲信	6月22日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月 8日ごろ	8月 1日ごろ(+)*	8月 1日ごろ	7月20日ごろ	115%(+)
北 陸	6月21日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月10日ごろ	8月 1日ごろ(+)*	8月 1日ごろ	7月22日ごろ	104%(0)
東北南部	6月21日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月10日ごろ	8月 1日ごろ(+)*	8月 1日ごろ	7月23日ごろ	134%(+)
東北北部	6月29日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月12日ごろ	8月11日ごろ(+)*	8月 1日ごろ	7月27日ごろ	77%(-)

(*1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「**日ごろ」と表現した。

記号の意味は、(+)*：かなり遅い、(+):遅い、(0):平年並、(-):早い、(-)*：かなり早い、の階級区分を表す。

(*2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美地方は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*：かなり多い、(+):多い、(0):平年並、(-):少ない、(-)*：かなり少ない、の階級区分を表す。

階級区分について

1971~2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%		33%	33%	
	10%	23%		23%	10%
梅雨入り・明け	かなり遅い	遅い	平年並	早い	かなり早い
降水量	かなり多い	多い	平年並	少ない	かなり少ない

代表地点における梅雨期間の降水量（参考）

地域名	代表地点	梅雨期間降水量（同期間の平年値合計）
沖縄	那覇	487.0mm（302.3mm）
奄美	名瀬	350.0mm（439.3mm）
九州南部	鹿児島	1246.5mm（623.5mm）
九州北部	福岡	421.0mm（413.6mm）
四国	高松	274.5mm（225.6mm）
中国	広島	292.5mm（376.3mm）
近畿	大阪	273.5mm（280.5mm）
東海	名古屋	431.0mm（331.1mm）
関東甲信	東京	272.5mm（235.3mm）
北陸	新潟	323.0mm（245.7mm）
東北南部	仙台	405.0mm（225.3mm）
東北北部	青森	91.0mm（148.3mm）

参考として、各地域の代表的な地点の入りの遷移期間のおおむね中日から明けの遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示した。括弧内には、同期間の日別平滑平年値の合計値を示した。

平成19年 各地域の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴

沖 縄

梅雨入りは遅かった。

奄 美

梅雨入りはかなり遅かった。

九州南部

降水量は前半少なく、後半かなり多かった。

九州北部

梅雨入りはかなり遅く、明けも遅かった。降水量は前半かなり少なく、後半多かった。気温は前半かなり高かった。

四 国

梅雨入りはかなり遅く、明けも遅かった。降水量は前半かなり少なく、後半かなり多かった。気温は前半かなり高く、後半低かった。

中 国

梅雨入りはかなり遅く、明けも遅かった。

近 畿

梅雨入りはかなり遅く、明けも遅かった。日照時間は前半多く、後半かなり少なかった。

東 海

梅雨入りはかなり遅く、明けも遅かった。降水量は前半少なく、後半かなり多かった。日照時間は前半かなり多く、後半かなり少なかった。

関東甲信

梅雨入り・明けはかなり遅かった。降水量は前半少なく、後半かなり多かった。日照時間は前半かなり多く、後半はかなり少なかった。

北 陸

梅雨入り・明けはかなり遅かった。日照時間は、後半かなり少なかった。

東北南部

梅雨入り・明けはかなり遅かった。降水量は多かった。日照時間は、前半かなり多く、後半少なかった。

東北北部

梅雨入り・明けはかなり遅かった。日照時間は前半かなり多かった。気温は前半かなり高く、後半低かった。

(注) 前半は6月、後半は7月(沖縄と奄美地方はそれぞれ5月、6月)の地域平均値による。